

かた

本所1丁目

町内会だより

くり

2021年
(令和3年)

12

月号

- 2P 町内会の活動状況について
本所会館和室畳表替え実施
町内会主催親善ゴルフ大会結果
- 3P 冬将軍の気配
新人紹介コーナー
- 4P 本所今昔物語



町内会の活動状況について

コロナウイルスの流行が始まって二年になります、これにより町内会でも様々な活動に制限が掛かり町内会主催・共催・後援事業の殆どを中止せざるを得なかったり、町内会総会を二年連続中止するなど異常事態となっております。

このことで皆さんからは町内会の活動内容が見えない状態になっていて、ご心配や疑問などお持ちになっておられるのではないのでしょうか。

『かたくり』では現在の町内会の活動の状況について予算の執行状況をつうじて報告をさせてもらおうと思います。

町内会中間決算書 2021.9末現在

収入科目	予算額	執行済額
1. 前記繰越金	499,686	499,686
2. 町内会費	4,700,000	3,839,000
3. 事業所寄付金	94,000	0
4. 防犯灯補助金	720,000	360,000
5. 雑収入	20	9
合計	6,013,706	4,698,695

支出科目	予算額	執行済額
1. 事業費	2,386,000	1,619,882
(1) 防犯灯費	1,300,000	715,407
(2) 会館委託費	800,000	800,000
(3) コミュニティ 広場費	56,000	46,906
(4) まちづくり費	230,000	57,569
2. 会議費	320,000	18,311
3. 備品費	51,000	16,720
4. 事務費	225,000	108,726
5. 区活動費	600,000	603,000
6. 団体助成	360,000	360,000
(1) 子供会	120,000	120,000
(2) 消防団	50,000	50,000
(3) 親和会	190,000	190,000
7. 報償費	880,000	4,000
8. 予備費	383,706	4,021
9. 会館修繕積立金	700,000	0
10. 自治会保険	108,000	100,150
合計	6,013,706	2,834,810

町内会で会計(副会長)を担当しております吉岡と申します。9月末時点の中間決算ができましたのでこれに基づいて活動の概略を報告させていただきます。



町内会副会長
吉岡道夫さん
1985年から本所1丁目居住
2010年から現職

(収入)まず収入のうち町内会費についてでございます、予算額4,700,000円で、現在未収となっている861,000円は半期払いの世帯とアパートなどの各月払いの世帯のものでございます。

次に防犯灯修繕等に係る市からの補助金では22箇所の入れ替え分でございます。

(支出)これからは支出についてでございます。

「防犯灯費」は蛍光灯からLEDに取替が順調に進んでおります、未取り替えの蛍光灯は町内全域で約23灯になりました。

「まちづくり費」「会議費」では計画いたしました「防犯組合総会」「コミュニティ関連」「町内会総会」「役員会」等がコロナ禍で中止となったことで大幅に執行残が発生しております。また、今後予定されております「町内新年会」「町内役員慰労会」等の開催についても、基本的には役員会での審議を待たなければなりません現状では開催が困難な状況でございます。

仮に中止となった場合の予算残につきましては、本所会館修繕積立金に充当する方向でご審議頂きたいと考えております。

理由としては、会館が竣工して20年余りとなり、これまでも屋根の塗装や照明器具・エアコン取替、今年度は畳表の取替等実施してまいりましたが今後更に外壁などの修繕が考えられますので少しでも多く積立金を増額しておきたいからでございます。

次に、その他の経常経費に関してはほぼ予定通り執行し、6つの区に対する区活動費603,000円や子供会など諸団体への助成金360,000円は予算のとおり執行致しております。

以上が予算の執行状態からみた町内会の活動状況でございます。異常事態の中ではございますが必要な事業については安全を考えながら実施しておりますので皆様からご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本所会館和室畳表替え実施

和室の畳表が傷んでいることから和室全ての畳表が替えられました。工事の発注については二社での見積もり合わせの結果下記の通りとなりました。

有限会社宮島畳産業
工事請負額 452,760円

町内会主催親善ゴルフ大会結果

去る10月3日(日)下田城カントリークラブにおいて本所1丁目町内会主催第38回本所1丁目(秋季)親善ゴルフ大会が開催され4区の小林克太郎さんが初優勝されました。

上位入賞者5/18

1. 小林克太郎さん 2. 岡田能隆さん 3. 藤崎嶺さん 4. 佐藤晴夫さん 5. 中林良夫さん

小林克太郎さん



いや～皆さんのレベルが本当に高くてまさか自分が優勝できるなんて夢にも思いませんでした。

ゴルフを始めて30年位ですが自分の打ったボールが青空の中を突っ切って行くときはストレスが発散されて爽快ですね。

新潟町から本所に来て9年になりますが本所の「和」は素晴らしいと感じます、特にゴルフ愛好者の皆さんの。是非他の人達からもゴルフ大会に参加頂いて本所の和を広めてほしいと思います。

幹事(s・w)さんの実況レポート

当大会は平成14年(2002)に第1回が開催され、途中から現在のような年2回(春、秋)制になって今回が丁度40回目の節目の大会となりました。

当日はまずまずの天気恵まれ朝8時30分に始まり午後4時には大きなトラブルもなく無事終わることができました。残念ながらコロナのために表彰式や懇親会を行うことが出来ませんでしたが来年には全ての行事を再開できるものと期待しております。

毎回20人前後の参加者があって、概ね30代から80代まで気兼ねなく交流できる大会でありますのでもっと大勢の方からご参加を頂いて30人規模の大会にしたいなと思っています。

なお、大会開催の周知方法が十分ではなかったため来年からは早めに日程を決め『かたくり』に掲載したいと考えておりますので是非ご参加下さい。

冬将軍の気配

冬将軍の気配が感じられる本所北児童公園です。冬を前に最後の輝きを発する櫟の紅葉を天気の変動が激しい11月3日に撮影してきました。

冷たい雨が降ると一気に落葉するので最後のチャンスだったかも知れません。

毎年最初の寒波が来ると「冬将軍襲来」という言葉が新聞やテレビで使われます。



さて、「冬将軍」という軍人がいたのかな？。答えは、1812年にナポレオンが圧倒的な勢力でロシアのモスクワに突入したものの厳寒と積雪によって苦しめられ大敗したという史実に因んで自然の寒波を擬人化した言葉だそうです。

本所1丁目にある南北の児童公園は本所親和会の皆さんが4月から11月まで毎月草刈りをしたり清掃されることで綺麗な環境を維持しています。

もうすぐ公園は冬期間の閉鎖になります、親和会の皆さん今年1年間大変ご苦労様でした。

なお、本所1丁目町内会では2Pの決算書にあるように親和会や子供会などの団体に対して支援をさせて頂いております。

新人紹介コーナー「よろしく」「ようこそ」

今回ご紹介するご家族は昨年2月に2区に転入されて私たちの仲間入りをされた「小林瑞樹さん」ご一家です。ご一家は下鳥町ご出身の瑞樹さんと新潟市ご出身の奥様、そして小学校1年生のお嬢さん、2歳の息子さんの4人家族です。



(質)以前はどちらにお住まいでしたか？

(答)新潟市に住んでいました。

(質)本所に家を建てられた理由と、特に見附市を選択された理由はなんですか？

(答)実家が下鳥町であることから見附市を選択しました。また、私が通勤で電車を利用しますので駅に近いことや周辺の環境がいいことなどからここを選択しました。

(質)実際に住まれてみて感想はいかがですか？

(答)近所に我が家と同世代の子供を持つ世帯が多いことや親切なご近所に恵まれて楽しく暮らしています。

(質)地域で何か活動をしたい、または参加したい行事などはありますか？

(答)娘が通う小学校のボランティアに参加したいと考えておまして、今年はプール監視に参加しました。また、小学校行事の「ふるさと遠足」にも興味があるのですが下の子供が小さいために参加が難しく残念に思っています。

本所今昔物語 本所と水(1)

何故、今「水」と思われるかも知れません。家庭では水道の蛇口を開けば当たり前のように上質な水が出てきます、また水田ではポンプの力により自動で水が給水されます。しかし江戸時代初期から昭和の始めまでは本所村や新潟地域ではこれが当たり前ではなかったのです。

昔は田んぼの用水どころか飲み水にも事欠くことが頻繁にありましたが、約三百年をかけてこれを克服して来ました。これに貢献した当地域の先人達の足跡を知ることによって現在の本所を知ることが出来るのではないかと考えて今後何回かに分けて「本所と水」を掲載したいと思えます。

新しく本所にお住まいの方には想像がつかないと思いますが、8月号に掲載したとおり昔の本所は一面田んぼで住んで居られた方の殆どは農家でした。

市立図書館の郷土資料に佐野宗著作『故郷地名散歩』が収められています、その「昭和江」の項目に江戸時代の当地の早魃の様子が記されています。「旱天続きの為に井戸水が枯れ涸れてしまつて朝早く起きて芋の葉や豆の葉に宿っている朝露で顔を洗つた」と。

【水不足の原因】

1. 各藩が収入を増やすために競って新田開発を行ったこと。(水源の能力を超えた開発)
2. 刈谷田川から取水が出来ないこと

①舟の運行が盛んなため大型の堰を造れない(自動車や鉄道が無い時代重量貨物の輸送は「舟」が主力だった。)

②川の流量が少ない

1657年長岡藩が栃尾鴉ヶ島に「大江用水」を建設(『見附文化財散歩』No.83)した結果刈谷田川の流量が見附町付近で大幅に減少。

【どのように代替りの用水の確保をしたか】

1. 本所堤(1727年建設)『見附文化財散歩』No.2
現在の見附市「医療福祉の里」敷地内に造られた大型溜め池で「昭和江」開通によって役目を終え、一旦田んぼになった後、見附中学校となり、更に学校の移転により現在の施設になりました。



見附市立病院 昔ここに「本所堤」がありました

2. 大平堤(1730・31年建設)『見附文化財散歩』No.28
本所堤建設の3年後、2年間で述べ3,500人もの人員を動員し、田1.5ha、畑0.5haを潰して建設されたと記録にあります。貴重な農地を潰し、十分

な賃金も支払われたとは思えない中でこれだけのものを造ろうとする決意の裏には如何に水に苦しんでいたかが想像できます。



東屋から見た「大平堤」今は大平森林公園として有名です

3. 大小の溜め池の建設

小栗山町から元町までの山沿いなどに大小多数の溜め池が造られた、新潟公民館前にあった「下鳥池」などは大規模なものです。本所地内には本所堤の他にも稲葉堤や小規模な溜め池が複数有ったようです。

【昭和江の完成】

昭和2年6月28日に刈谷田川葛巻取り入れ口から取水を開始し水路に仮通水を行い、本所、新潟地区から現三条市の本成寺村、南入蔵まで達した。この用水を「昭和江」と名付け、その後様々な改良を加えて現在のように便利な用水になりました。

「昭和江」本所保育園付近の水路です。



次号からはこれらの出来事を個別に取り上げ具体的に先人達の功績を紹介いたします。

表紙写真

9月上旬に6区の住宅街の外れから撮影した田んぼと弥彦山。見附の人には市街地から見える弥彦山は故郷の原風景と言えるものだと思います。郷土の画家池山阿有さんの作品といえ一連の「炉端」が有名ですが、田んぼから眺めた弥彦山の作品もあり、見附市が所有しています。

撮影時、全国都道府県の半数近くに緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が発令され、新潟県でも独自の警報が発令されるなど非常事態下にあっても本所から見える自然の風景は何時もと同じ、農家の皆さんの作業にも変わった所は見えませんでした。

発行元

新潟県見附市「本所1丁目町内会」

担当 野水英男 TEL62-1542